「里山レンジャーのロマン紀行　No.１４　４月１７日～４月１８日」

４月１７日(日)に植物観察会を実施しました。講師は、プレック研究所の芝野将年氏です。当施設の建設に当たり、当初より自然環境アセスメントに係る指導をお願いしています。

参加者の方から、「目に留まる“雑草”とひとくくりにされている全ての植物の名前を教えてほしい」というご要望に応えながらの、午前中はビオトープ内、午後は散策路に沿っての観察会となりました。それぞれの花弁や葉の特徴についての詳細な解説や春の身近な植物についての概説など、時間の経つのも忘れる一日となりました。

日本固有種のオオイワカガミです。鹿の食害を防ぎ、２～３株から株数を増やし、開花を待って３年目の感動です（遊歩道沿い)。

クジャクシダです。葉の枝分かれに特徴があり、枝を扇のように広げた姿が、クジャクの尾羽を思わせるのが和名の由来です。繊細で涼やかな印象を与えるため観葉植物として人気があります。

残念ながら、当地では立ち入り困難な場所です。

エンレイソウです。３枚の大きな葉の中心から短い花柄が伸び、小さな花をつけます。花は花弁を持たず、３枚の濃紫色のがく片を持ち、横向きに咲きます。

花をつけた株をやっと写真に納めることができました。

ヤマエンゴサクです。

ケシ科の多年草で、当地では初めての観察です。

敷地の奥深い場所であったことと、５月で姿を消す「春の妖精」の１つなので発見が遅れたものと思われます。

ホウチャクソウです。漢字では宝鐸草と書きます。宝鐸とは風鈴の原型になった青銅製の鳴り物です。お寺の本堂の四隅や灯籠のひさしにつるされ、風で音を奏でます。

白から緑へのグラデーションが美しい花です。